

足立美術館



A D A C H I



M U S E U M



O F A R T



● 開館時間 ●

4月～9月/AM9:00～PM5:30・10月～3月/AM9:00～PM5:00・年中無休

【パートナーズカード】

◎年会費6,000円で2年間に何度でも入館でき、そのほか特典も多数。
◎来館時に受付で申込み、即日発行できます。



【無料シャトルバス】

JR安来駅より便利な無料シャトルバスを運行しております。
お気軽にご利用ください。



無料シャトルバス時刻表
開催中の展覧会情報などをご確認いただけます。



〒692-0064 鳥根県安来市古川町320 TEL.(0854)-28-7111 FAX.(0854)-28-6733
(大阪オフィス) 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-4-3 丸全ビル7F TEL.(06)-6264-0737

足立美術館ホームページ <https://www.adachi-museum.or.jp/>

(乗用車・バス無料駐車場あり)

● 入館料(税込) ●

2014年4月1日改定

区分	個人	団体 20名以上	団体 100名以上
大人	¥2,300	¥1,900	¥1,700
大学生	¥1,800	¥1,500	¥1,300
高校生*1	¥1,000	¥800	¥700
小・中学生*1*2	¥500	¥400	¥300

(20名様以上、100名様以上の場合それぞれ団体割引があります)

～青少年に対する優遇処置について～

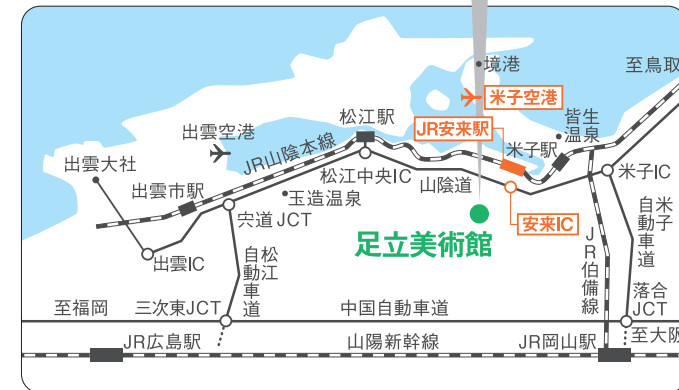
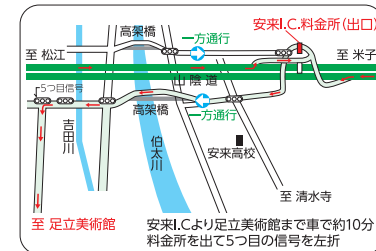
- * 1 公立学校が休業日となる土曜日は、小中学生の入館料を無料といたします。(要学生証提示)
- * 2 小中学校(高校は含まず)の学校教育の一環として教師等が引率し利用する場合は、事前に申込みがあった場合に限り無料といたします。

交通のご案内

- 飛行機 米子空港から車で45分
出雲空港から車で50分
東京から(全日空)米子まで80分
(日本航空)出雲まで90分
名古屋から(FDA)出雲まで60分
大阪から(日本エアコミューター)出雲まで60分
福岡から(日本エアコミューター)出雲まで65分

- JR 安来駅から無料シャトルバスで20分
岡山から(特急やくも)米子まで130分
安来まで140分

- 車
大阪から3時間30分
(中国自動車道→米子自動車道→山陰道安来I.C.)
広島・尾道から2時間50分
(中国自動車道→松江自動車道→山陰道安来I.C.)
(尾道自動車道→松江自動車道→山陰道安来I.C.)
岡山から2時間30分
(岡山自動車道→米子自動車道→山陰道安来I.C.)



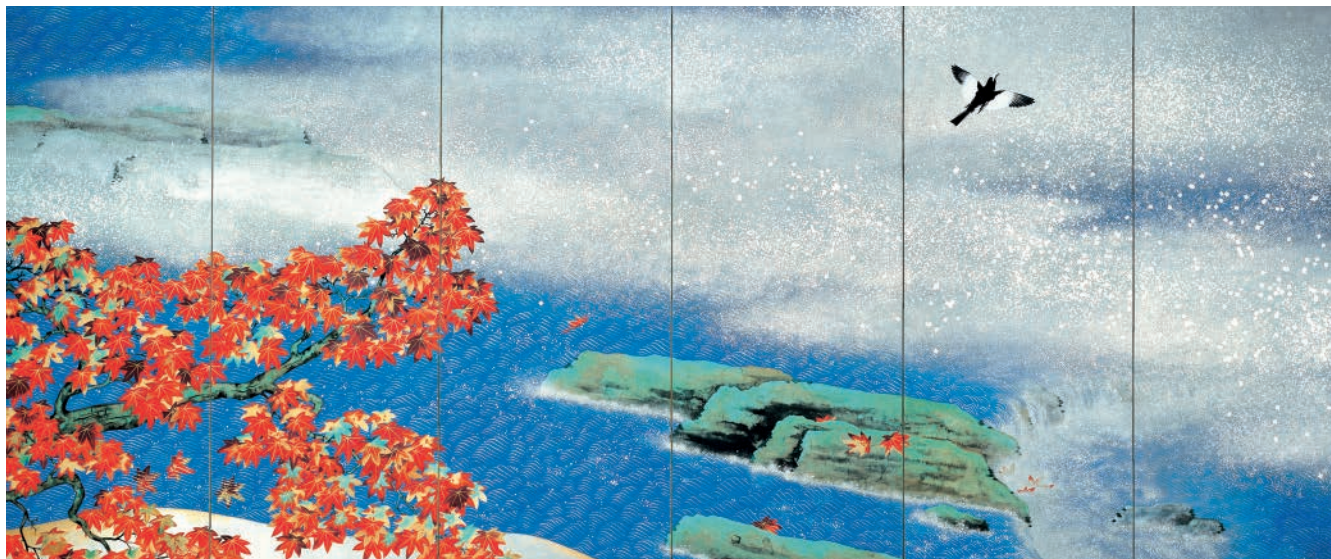
名園の時間。 名画の時間。

霧雲立ち昇る
山並みを背景に、
移りゆく四季の彩を
愛でるひととき。
巨匠たちの筆致に心うたれ、
澄み渡った静寂に
耳を澄ませるひととき。
あたりを見やれば、
まるで自分さえも
一幅の絵画の中にいるような、
快い錯覚をおぼえます。
5万坪に及ぶ大庭園と、
横山大観コレクションはじめ、
近代日本画の
絶妙なる調和——。

ここには、やすらぎという名の
心洗われる時間が流れています。



庭園の一部 春の枯山水庭



横山大観 紅葉（右隻・昭和6年）

名園

名園美と日本画の調和。

「庭園もまた一幅の絵画である」。

当館創設者・足立全康の想いと、庭づくりへの情熱を
生き生きと伝える5万坪の日本庭園。

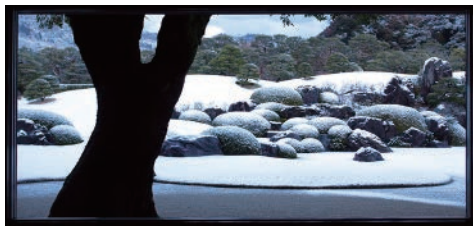
枯山水庭、苔庭、池庭、白砂青松庭…と

歩を進めるたびに眼前に広がる閑雅な風情は、

館内の日本画と相まって訪れる方の心を静かにいやします。

春はサツキ・ツツジ、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色…

四季を通じて美しい自然の移ろいをお楽しみいただけます。



窓枠をそのまま額縁に見立てた“生の額絵”です。
四季の移ろい、光の陰影とともに変化する、
自然による生きた絵画です。

「庭園日本一」

ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング

米国の日本庭園専門誌「The Journal of Japanese Gardening
(ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング)」が、全国約1000か所の
庭を対象に実施している「日本庭園ランキング」において2003年から
連続して日本一に選出されています。



秋の枯山水庭

名園の見どころ



苔庭 ● 薄明が訪れると、漆黒の闇に松が輪郭をあらわし、京風の雅やかな風情にまつまれた苔庭はたちまち、みずみずしい朝の気配に満ちあふれます。

夏の白砂青松庭 ● 横山大観の名作「白沙青松」の持つ雰囲気を感じて表現した庭園。白砂と松の緑のコントラストが印象的です。



亀鶴の滝 ● 高さ15mの滝口から轟き落ちる壮観な眺めが庭ごとに。春夏は一瞬の涼味を、秋冬は深山幽谷の風情を誘います。

冬の池庭 ● 横山大観特別展示館を浮御堂のように抱いて揺らめく清澄な水。鏡面のような水面には、雪に覆われた樹々が冴えた姿を映します。



生の額絵 ● 床の間の壁をくりぬき、あたかも一幅の絵画がかかっているように“庭園絵画”が見られる、足立美術館の名物のひとつです。



名画

近代日本画の
代表作を一堂に。

横山大観をはじめ、竹内栖鳳、川合玉堂、上村松園、橋本関雪、榊原紫峰など、近代の日本画壇を彩った巨匠たちの作品を中心に総数2,000点を所蔵し、年4回の特別展にて順次紹介しています。特に、120点を数える大観コレクションは、常時20点前後を公開しています。庭園の風情とともに、名画の深い味わいをお楽しみください。

横山大観



東京美術学校にて岡倉天心の薫陶を受け、天心、菱田春草らとともに日本美術院設立に参加。のちに同院を再興する。水墨画や濃彩画に異彩を放ち、明治・大正・昭和にわたって、近代日本画壇の礎をつくりあげました。



横山大観 無我 (明治30年)



横山大観 雨霽る
(山海二十題之内・昭和15年)



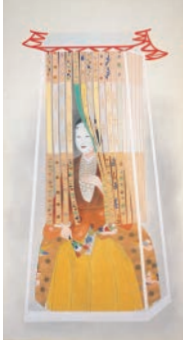
横山大観 海潮四題・冬
(山海二十題之内・昭和15年)



横山大観 紅葉 (左隻・昭和6年)



川端龍子 愛染(昭和9年)



小林古径 楊貴妃(昭和26年)



橋本閑雪 唐犬図(右隻・昭和16年頃)



竹内栖鳳 雨霽(左隻・昭和3年)



安田靉彦 王昭君(昭和22年)



榑原紫峰 富貴草(昭和13年頃)



上村松園 娘深雪(大正3年)

- 横山大観
 竹内栖鳳
 橋本閑雪
 榑原紫峰
 川合玉堂
 川端龍子
 上村松園
 伊東深水
 寺島紫明
 鈴木清方
 菱田春草
 速水御舟
 今村紫紅
 小林古径
 山元春挙
 富岡鉄斎
 土田麦僊
 村上華岳
 入江波光
 西山翠嶂
 菊池契月
 西村五雲
 安田靉彦
 徳岡神泉
 小茂田青樹
 前田青邨
 山口華楊

主な所蔵作家

童画の世界

思わず童心に戻ってしまいたいような、ほのぼのとした温かさが伝わる童画の中から、武井武雄、林義雄、川上四郎、黒崎義介、鈴木寿雄、井口文秀の6名の童画家の手による、細やかで感性豊かな作品を数多く所蔵。童画コーナーに常設展示しています。



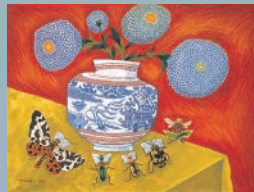
鈴木寿雄 そうとたわむれる天使



林義雄 天使のおひるね



林義雄 ピエロ



武井武雄 読書会

魯山人館

近代陶芸の巨匠が
創り出した「美」の空間。

稀代の料理人であり陶芸家としても知られる北大路魯山人。

足立美術館では、魯山人の作品を約500点所蔵しており、

魯山人館にて順次公開していきます。

魯山人は、書や篆刻にはじまり、

陶芸、漆芸、絵画などのあらゆる分野で偉才を発揮し、

食の空間を芸術の領域にまで高めるとともに、

独自の美的世界を築き上げました。

魯山人作品の魅力を感じ取りとお楽しみください。

北大路魯山人

佳き食物は佳き食器に盛り、佳き掛軸と相応の花器に活けた花の精に包まれて摂るのが本当の食事であるという考えから、自ら作陶に手を染めた稀代の料理人。味覚品格すべてにおいて最高を極めた料亭「星岡茶寮」を宰領し、料理をとりまく総合的な美的世界を構築しました。



青於里遍籠形花器
(昭和25年頃)



椿鉢
(昭和15年頃)



金らむ手津本(金襴手壺)
(昭和15年頃)



淡海老鋪(大正2年)



いろは屏風(昭和28年)

足立美術館が開館50周年を迎えた2020年春、新たに『魯山人館』が開館しました。魯山人の作品を鑑賞するために設計された展示空間で、当館コレクションの中から、常時約120点をご紹介します。



2020年4月、
「魯山人館」オープン



新館

現代の日本画の
美を堪能する。

足立美術館は、横山大観らが創立、再興に尽力した日本美術院（院展）の画家を中心に、現代日本画の収集にも力を入れていきます。足立美術館賞受賞作をはじめ、宮廻正明ら現代を代表する日本画家の優秀作を約350点所蔵し、新館にて紹介しています。また、毎年「再興院展」「春の院展」を開催し、日本美術院同人の新作や院展入選作を一堂に展示しています。近代から現代へと続く日本画の美をご堪能ください。



アートシアター

新館1・2階にはそれぞれ展示室があり、50〜500号サイズで計50〜100点の作品を展示いたします。また1階にはアートシアターが併設されており、展示解説や講演会、映画上映などを行います。

宮廻正明
位想空間
(平成29年)



松尾敏男
ヴェネチアよ、さようなら
(平成25年)



宮北千織
しずき祈り(令和元年)

【足立美術館賞】

足立美術館では、日本美術の発展と将来性ある日本画家を育成する一助になればという思いから、開館25周年を迎えた平成7年（1995）に「足立美術館賞」を創設しました。毎年9月に開催される日本美術院展覧会（院展）の中から、優秀かつ当館にふさわしい作品を1点選出するもので、同時に受賞作の買い上げを行っています。また、平成17年（2005）からは、春の院展にも「春の足立美術館賞」を設けています。両賞を受賞した作品が、現代の日本画を語るうえで欠くことのできない存在となり、また当館の新しい顔となっております。くれることを願って止みません。



【第22回 足立美術館賞】
國司華子 ものね(平成28年)

館内のご案内



ミュージアムショップ (本館)

●名画と名画の感動をいつまでも…。絵葉書、色紙、複製画、図録などオリジナル・ミュージアムグッズを販売しています。



ミュージアムショップ (新館)

●新館1階の和モダンなショップでは、現代日本画グッズを中心に、複製画、菓子類なども充実しています。



喫茶室「翠」

●枯山水庭の眺望が素晴らしい喫茶室。香り高いコーヒーや紅茶など、お飲物やデザートをお楽しみになれます。



喫茶室「大観」

●池庭に囲まれた喫茶室。ケーキや甘味メニューのほか、島根和牛を使用したビーフカレーなどのお食事もご用意しています。



茶室「寿楽庵」

●古来、招福・延命に効ありとされる縁起の良い純金の茶釜で沸かしたお湯でお抹茶をお出ししています。